

日本第四紀学会によるジオパークの推進：その歴史と今後の方向性

History and future perspective of promotion of geopark by the Japan Association for Quaternary Research

*植木 岳雪¹*Takeyuki Ueki¹

1. 千葉科学大学危機管理学部

1. Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science

日本第四紀学会は、約260万年前から現在にいたる第四紀の自然、環境、人類に関する専門家からなる学際的な学会であり、国際第四紀学連合（INQUA）のもとで1956年に設立された。地球惑星科学連合、自然史学会連合に加盟し、現在の会員数は約1,200人である。取り扱う分野は、地質学、地理学、考古学、古生物学、植物学、土壌学、地球物理学、地球化学、工学、人類学、動物学などである。日本第四紀学会は小さな学会であるが、学会員の多様性を生かして、2000年代後半から研究成果の社会還元、教育・普及の活動を積極的に進めてきた。学会独自の活動としては、2007年には露頭保全のシンポジウム、2010年には地学教育のシンポジウム、自然史教育のシンポジウムとポスターサロン、2011年には地震・津波・防災の普及講演会、アウトリーチ巡検、博物館でのミニ講演会とコンサート、2012年には園山俊二のまんが原画展、児童向きの質問コーナー、南極の普及講演会と南極昭和基地との中継、2013年には博物館でのミニ講演会、アウトリーチ巡検、2015年には国際第四紀学連合（INQUA）大会にあわせた普及講演会と博物館での関連展示、防災教育のシンポジウムなどが行われた。また、2011年には地学教育についての学会誌別冊号、2011年と2013年にはアウトリーチ巡検に関するハンドブックが発行された。自然史学会連合の普及活動の一環としては、2014年、2015年にはブース型体験教室の出展が行われた。これらは、2011年から2012年には教育アウトリーチ委員会によって行われたが、それ以外の期間では行事・企画幹事の担当として行われ、組織化はあまり進まなかった。日本第四紀学会はジオパークを推進してきた。2010年のポスターサロンでは、日本各地のジオパークに参加を呼びかけ、ポスター展示を行った。地球惑星科学連合大会ではジオパークのセッションを共催してきた。しかし、学会としてジオパークを推進する取り組みが活発でなかったため、2015年にはジオパーク支援委員会が組織化され、日本ジオパークネットワークへ委員が派遣されている。そして、2016年6月にはジオパークのシンポジウムを開催する予定であり、今後、各地のジオパークへのコンサルティングを行うことを考えている。一方、2016年1月には「社会のための第四紀学」研究グループが立ち上がり、ジオパークについての調査・研究や広報・普及活動が行われる予定である。

キーワード：日本第四紀学会、ジオパーク、アウトリーチ

Keywords: The Japan Association for Quaternary Research, Geopark, Outreach